

立命館宇治中学校・高等学校 2018年度 学校目標 シート

2019年3月28日 作成

教育目標		中期目標				
①(国際化教育)高い外国語運用力と広い視野をもって異文化を理解できる能力の育成 ②(情報化教育)情報機器を活用し、情報の受信・発信する能力の育成 ③(統合と卓越の教育)統合された知識と卓越した能力の育成 ④(貢献)高い倫理観をもち、社会・世界に貢献できる姿勢の育成		(1)豊かな教養と確かな学力を身に付け、主体的に学び・考える姿勢をもった生徒の育成 (2)高い教養と語学力を背景に、多文化協働でリーダーとして活躍できる能力の育成 (3)高い倫理観と規範意識を備え、強い責任感で社会や世界に貢献できる生徒の育成 (4)向上心を持って自己研鑽に努め、協働のもと新しい学校づくりを目指す教職員集団の形成 (5)地域・保護者との信頼関係に裏打ちされた学校ブランド力の確立と生徒募集力の向上 (6)魅力ある教育を支える体制や生徒が安心・快適に学ぶことができる学習環境の整備				
区分	A.課題(上位目標)	B.目標(中位目標)	C.達成目標(当年度目標)	D.自己評価	E.具体的施策(どのような方法で)	
教学課題	(1)豊かな教養と確かな学力を身に付け、主体的に学び・考える姿勢をもった生徒の育成	1 計画的な学力向上と自立した学習者の育成	(1) 中学3年間の到達目標(学年目標は省略) a) 英:英検準2級85%, 2級40% b) 国:漢検準2級50% c) 読書:100冊2万頁 e) 学力推移調査の偏差値50以上 (2) 家庭学習時間向上, 自学自習できる生徒育成	○	各教科で学年毎の学力の数値目標(定期試験・模試・検定)の設定し、達成の確認を行う。(各教科・分掌・学年の方針と総括の数値化) 5つのスタディスキルの徹底 補習の実施 プラスRノートを活用した計画的な学習習慣の定着	
		2 能動的で系統的な指導の展開	(1) 生徒が授業に積極的に参加する工夫 (2) コア科目による学習動機強化 (3) 社会の変化に対応する特色ある教育の実現 (4) 図書館を積極的に活用	△	各授業課題のコントロール, アンケート数値の確認。 各教科での積極的な議論と工夫, 交流 「コア科目」のカリキュラムを研究・開発	
		3 高い専門性を育成する文科・理科の取り組み	(1) 高大接続授業・行事の実施により, 学ぶ意味を理解し高い専門性を目指す気概を育てる。 (2) 大学で学ぶための必要な学力をつける。	○	校外での学習支援制度の創設(教育後援会支援事業)大学教員・社会人の積極的な活用 高大接続授業・行事 オリエンテーションと振り返り 模試の活用と特別授業の実施	
		4 ICTを活用した学びの質的転換	(1) 中学におけるICT活用をすすめ, 授業改革 (2) 高校ICT活用拡大/発表型授業・イベント実施	○	中学ICT教育検討委員会, ICT公開授業研究会の開催 教科主任会議にて議論, タブレットを活用したアクティブラーニングの積極的導入(学びの質的転換)	
		5 CSLキャリア教育の充実	(1) 大学との接続教育 (2) 学生・社会人講師, 大学教員との接点拡大 (3) 適切な進路情報の提供と状況把握 (4) 国際系学部・海外大学への指導対応力強化	◎	学部スペシャリストを軸とした大学連携, 一貫教育イベントの活用 キャリア教育部を中心とした行事設定 キャリア教育部・学年・教務部との連携 IB/IM/キャリア教育部の連携と情報管理, GLAへの進学, APU拡大	
	(2) 高い教養と語学力を背景に、多文化協働でリーダーとして活躍できる能力の育成	1 異文化体験の充実	(1) 安全に留意し, 質の高い留学派遣を実施 (2) 留学生受け入れによる校内異文化体験 (3) 帰国生へのきめ細やかな支援 (4) 学校内外での多様な異文化体験の機会提供	○	国際センターによる学年と共同したコントロール。留学案内 留学生受入数増, 留学生交流企画, 中学におけるAPU学生連携企画の実施 帰国生への面談の実施 GCPの安全な運営。参加者50人超	
		2 高い語学運用力の養成	(1) 高い語学力の生徒への指導のシステム化 (2) 全体水準の引き上げ, 高3TOEFL430全員達成 (3) 安全な海外研修旅行の実施と新方針・入札 (4) 英語を活用した行事を開催 (5) 第二外国語の取り組み, 情報発信の強化	△	英語科を中心とした取り組み TOEFLの計画的実施, 早期に高3の400点全員到達。 高1の海外研修旅行についての方針提示 スピーチコンテスト, R-TalkUJIなどの実施 学習成果の披露機会を検討(検定やコンテストへの参加など)	
		3 特色ある教育プログラム(IB・IM)の発展と普及	(1) SGH5年目の活動締めくくりと今後の展望検討 (2) IPS・IBの教育の質の向上 (3) 海外大学進学支援	◎	SGH推進機構の継続, GLS実践の推進, 学外ネットワークと連携した新規プログラムの開発 IBディプロマ全員取得, 平均目標35点, 40点以上3名 カレッジカウンセラーの活用	
	(3) 高い倫理観と規範意識を備え、強い責任感で社会や世界に貢献できる生徒の育成	1 オープンマインドと学校全体の一体感	(1) 学校全体の一体感・共に存在している実感 (2) 挨拶からはじまる人間関係の構築 (3) 正しい制服着用の指導を行う (4) 公共財(学校設備・備品)と私財の管理	◎	全校行事など, イベントでの配慮。 教員からの挨拶励行, 朝の挨拶運動の継続 制服購入時・日常的な指導 朝礼・集会などで機会を見つけて呼びかけ	
		2 生徒が自ら主人公と思える学校運営	(1) 生徒が主体的に運営するイベントの拡大 (2) 学校祭の改革	○	生徒部を中心とした議論を継続する。生徒の自主的な体育祭の運営 学年毎の生徒部運営委員会の定例化。生徒同士のアドバイザリーシステム	
		3 クラブ・貢献活動の支援	(1) クラブ相互に励ましあえる風土づくり (2) クラブ指導者の意識を共通化 (3) 生徒の能力を引き出す指導と安全管理・「積極的体養」の設定 (4) スポーツ庁のガイドラインを受けたクラブ運営のあり方改革 (5) 各種表彰の実施, 全校応援/全国大会出場時の壮行会の実施	◎	クラブ部長会, 相互応援の奨励 クラブ顧問会議の実施, 生徒による清掃活動の継続 外部コーチ補助制度の活用 クラブ指導計画の作成 一貫教育部全体としての議論と校内議論	
		4 人権意識の涵養	(1) いじめなど人権にかかわる指導事案の減少 (2) 震災復興支援の継続	○	道徳(TOK)などを通じた啓蒙 取り組みの校内広報強化	
	管理運営課題	(4) 向上心を持って自己研鑽に努め、協働のもと新しい学校づくりを目指す教職員集団の形成。	1 自立した教職員集団	(1) 教育研修 (2) 研究授業・公開授業・研究会の開催 (3) 若手教員への支援	○	校内研修の実施と校外研修への派遣 教科・テーマ公開授業の実施 新人研修や授業支援
			2 情報の共有化	(1) 教材の共有とデジタル化 (2) 学事処理システムでの生徒情報の共有	◎	教材サーバー, ファイルサーバーでの教材の管理 学園の支援の下での統合的システム導入の検討
			3 信頼の確立	(1) 保護者・生徒授業アンケート等の数値向上 (2) 教育相談・HAT・カウンセリングの確立 (3) 万全の入試運営	◎	アンケートの定期実施と集約 学年会での情報共有の推進。教育相談責任者の配置。 問題点検の複線化, デジタル採点の検討
4 新たな学校創造			(1) 新授業・土曜日運用の詳細案の策定 (2) Scs, Gcsの運営準備 (3) GLA, 国関JDなど国際系発展への貢献	△	教育政策委員会にて議論 担当者の配置, 議論の見える化 説明会の実施, セミナー入試の広報	
(5) 地域・保護者との信頼関係に裏打ちされた学校ブランド力の確立と生徒募集力の向上		1 地域連携	(1) 土曜市民講座・スポーツ教室の実施 (2) リッツキッズの運営 (3) 生徒ボランティアの活性化 (4) 登下校の安全確保と公共交通マナー向上	○	年5回の土曜市民講座を実施する。 リッツキッズ入試の実施 生徒会・部活などの組織による活動を働きかけ 新入学時のオリエンテーション, 自転車講習会, マナー啓発運動の実施。 登下校指導, バス運営会社との定期協議	
		2 保護者連携	(1) 保護者会との協力共同 (2) 丁寧な懇談会・説明会の実施	○	総務情報部・学年主任を中心とした対応 懇談会期間の設定と事前の案内文の配布	
		3 同窓会	(1) 卒業生とのつながりの可視化	○	同窓生名簿の整理について検討。	
		4 生徒募集	(1) 附属3校の共同歩調を強めた取り組み (2) WEB広報の強化 (3) 国内外の募集活動の質的高度化	△	3校入試担当者会議の実施 WEBリニューアル 年間活動計画の立案, 中学推薦(英検, RitsKids, 指定校)の積極的アピールを行う。広報物の質を高める。	
(6) 魅力ある教育を支える体制や生徒が安心・快適に学ぶことができる学習環境の整備。		1 学習環境の整備	(1) 教室でのICT活用の利便性向上 (2) 体育館冷房設備の導入 (3) 新校舎建設に向けた校内施設運用変更 (4) 生徒の安全の向上	○	教室プロジェクタ, 中学教室の無線設備の増強 担当部署での検討, 運用ルール策定 全体・担当部署での議論を継続 安全管理委員会, 生徒会との話し合いを継続する。	
		2 リスクマネジメント力の強化	(1) 危機管理(防災・海外・スポーツ中)の強化 (2) いじめ・体罰の未然防止対策の強化 (3) 交通安全対策の実施 (4) 保護者への情報伝達手段の充実	○	消防・避難訓練の実施, 情報管理の対応強化 中学携帯電話についての指導, いじめ防止対策委員会の開催 大久保駅当番の充実 お知らせメールなど保護者への情報伝達手段の効率化, スピードアップ	
		3 安心安全の寮運営	(1) 学習する雰囲気づくり, 自治の充実 (2) 健康管理 (3) 保護者への適切な連絡	◎	教員寮当番の実施 生徒寮運営委員会の定期開催 連絡簿の管理	
		4 将来構想の立案	(1) 新時代の教員組織体制・働き方の議論 (2) 将来的な生徒寮の運用についての議論	×	将来構想検討委員会への提案, 学校内外の議論の活性化 教育政策委員会での議論開始	

達成状況	SGH最終年度と研究開発指定学校の初年度を同時に抱えて、それぞれの社会的発信事業を成功させるほか、ICT公開研究会も実施し、各方面で大きな前進が見られた。課外活動においても複数のクラブ・団体が全国レベル以上で活躍し、大きな成果が得られた。学術祭の充実や新カリキュラムにむけた各教科での挑戦的な授業創造などを推進してきた。一方で、基礎学力の充実については引き続き保護者からの期待が寄せられている部分である。また、慣例的に進めてきた業務やルーチンに対して、合理化や効率化の余地も残されている。
改善策	WWLの提案を、採択の可否に抛らず推進することで、学校の発信力をさらに推進していく。合わせて、上記で指摘した基本的な指導やルーチンについても見直しをすることで、学校の根幹をより強固なものへとしていく。将来構想にかかわって、IB・IMの発展とそれにもなうIGの底上げを、2020年から2025年にかけて段階的に進めることで、学校のポジションをさらに高いところで引き上げていく。
支援希望	国際化の推進にともなって、拡充予定のIBや中学IPCのための新棟の建築、APUとの連携強化、世界規模で展開する生徒募集への支援。英語科に限らず英語対応能力をもった教員集団に変貌していくための人的支援（学園の組織力を活かした人的ネットワークの活用を含む）。